

令和7年度 第1回がまごおり協働まちづくり会議 会議議事録要旨

日 時 令和7年6月9日（月）午前10時～
場 所 蒲郡市役所 本館3階 304会議室

1 開会

事務局より、配布資料の確認、会議について説明。

2 議題

(1) 会長・副会長の選任について

会長について、立候補または推薦により、吉村委員が推薦され、選任された。

副会長について、会長から金子委員が指名された。

会長より、第4回議事録の承認

(2) 協働まちづくり推進事業について

事務局より、まちづくり事業助成金制度、協働モデル事業、協働のまちづくりの指針について説明

・まちづくり事業助成金は4年間動いてなかったが、今年度は4事業の応募があり、予算の中で減額もあったが3事業を採択している。この会議では、日頃から思っていることなど自由に意見をいただき、改善の検討をしていきたい。

・助成金の事業一覧を見ると、今も継続している事業がある。知っている団体もあり、この助成金のはじめの1歩になっていることが分かった。

・はじめの1歩を後押しする意味でも、助成金制度の存在を知ってもらうにはどうしたらよいか、ここがこれまでも継続した課題としてある。チャレンジ助成金でも、もっと多くの人々が、若い人たちも申請してくれるようになるとよい。

・50年続いている団体でも、自分たちの会費で活動をしているためか、市と関わる機会が少なく、連携ができずに残念に思うこともあった。助成金の制度についても、まちづくりセンターへ団体登録をしていなかったら知り得なかったため、知らない団体も多くあると思う。

・まちづくり事業助成金は、ここ数年活用されていなかった。市の職員も助成金制度を全員が知っているわけではない。市のLINEなどでも発信しているが、周知は行き届いていない。アイデアがあれば是非お話しいただき、やれることはやっていきたい。

・客観的に見て、市民の皆さんが多くのことに取り組んでおり、市民活動は前進していると感じている。ただ、皆さんの活動を知ってもらうには、溢れるくらいの情報があり、どう伝えていくのか、優先順位をどうつけていくのかなど、意見をいただきながら戦略を考えていけるといいと思っている。

・助成金の一覧を見ても、近年では地域コミュニティのチャレンジが増えてきており、地縁による活動が活発になってきているのを感じている。

- ・この会議でも助成金制度については議論を続けてきたが、結果として、今回助成金事業のエントリーがあったことはよかった。プレゼンを見させてもらい、やりたいことは色々あると思うが、それをどう伝えるか、伝え方が難しいと感じた。自分の経験では、助成金事業採択後の他の団体や人とのつながりが大事だと思っているので、お互いに協力しながら発展していけるとよい。

- ・平成17年から取り組みが始まっており、適宜見直しができるいくとよい。例えば、助成対象外経費の食糧費についても以前から議論があったところかと思う。

- ・食糧費については、事業に関わる経費は対象となるが、事業に関係のない経費は対象外としている。

- ・例えば、ワークショップをやる際の材料費であれば対象ということと思うが、実例として記載するなど分かりやすく示すことが必要。

(3) 令和7年度協働まちづくり事業について（別紙2）

事務局より、令和7年度協働まちづくり事業、指針推進ワーキングについて説明

- ・コミュニティカフェについては、調整に苦労している。場所については福祉課が所管となるが、市民活動の展開となると他の部署との連携が必要となり、また、カフェの運営においては保健所の許可等が必要となる。その中で、双方を立てていこうと考えると、落としどころが厳しい。現段階では、少しでも前進するため、保健所の許可が不要となる方法で、交流スペースからスタートするべきではないかという案も上がってきている。ただ、状況、条件に応じて一緒にやる団体も変わってくるため、方向性の検討を進めている段階。

- ・社会福祉の取組は過渡期であり、チャレンジだと感じている。一般的には、入り口は相談支援的なところからであるが、それ以外のチャンネルをどう作っていくのか、社会参加の機会をどう作るかが必要になっている。一方で、福祉分野は必ずしも得意ではないエリアだと感じており、市民協働的な発想とどう重ね合わせていくのかということを全庁的にやらなければいけない話で、それが縦割りになってしまうということは、すごく残念だと思う。

- ・同じ分野で活動していても、行政との連携に差があると感じている。市民との連携においても、庁内の風通しよく明るくしてもらえるとよい。

- ・福祉分野はお金を稼ぐことには弱く、障害のある人が安い賃金でという考えがあったが、今は、きちんと相応の対価を得て活躍できる社会にしなければいけない。行政や地域と連携しながら社会で活躍の場を作っていけるとよい。

- ・支援する対象だからで始めるのではなく、その人がどうなりたいのかの希望から入るべきではないかと思う。「若い人のために」「障がいのある人のために」という考え方から見直さなければいけない。

- ・支援する対象としてからではなく、やりたいこと、できることから組み立てていくことが大事。

- ・福祉分野に限らず感じることは、何か検討する際に、課題から入りがちだが、もう少しその人の可能性や希望から入ることが大事で、「若者のために」や「障がいのある人のために」ではない発想から考えないといけないと思う。

・縦割りについては見直さなければと常に意見をいただいている。その中で、福祉総合窓口や、こども家庭センターを作り、切れ目のない支援体制づくりを進めさせていただいているところ。協働モデル事業においても、1つの課に留まらず、いくつかの課が関わるものもあると思うので、調整をしながら見直すべきところは見直していきたい。

・組織、制度、仕組みを作れば、それぞれの線引きができるが、共にやっていくとか、越境の発想で、一緒にやるためにどうすればいいかを考えていくことが大事。行政の職員でも、縦割り組織の中だけで解決しようと思っている人ばかりではないが、越境しようとする職員をどう活かしていくのかが組織の大きな課題ではないかと感じている。

・地域においても、障がい者や外国人とどう一緒にやっていくかは課題。集会施設や神社のバリアフリー対応など対応を進めているものの、自治会への加入は難しいのが現状。障がい者も共に暮らす社会と言いながら、自分たちの地域でもやれているようでやれていないため、そこが課題だと感じている。

・市の計画策定に関わる中で気がかりなのは、所管の課としてやることだけが書かれていること。もっと課題をオープンにしたらいのになと思うが、課題を載せた途端に「これはだれがやるのか」と押し付け合いになってしまうので、載せづらくなっているように感じる。自分たちだけでできないものは、社会に問う、協力者を求める形で課題を出していけば、色々な動きが出てくると思うので、課題をオープンにすることを考えてほしい。

・モデル事業では、行政だけでは解決できない課題に対して、関係団体や、関係部署が関わり、役割分担や運営の方法について考え、どうしたら協力した体制で取り組めるのかを検討しており、課題をいただきながら、協働の動きを進めていきたい。

・障がい者の地域参加の話は、障がい福祉計画の中では最先端の話だと思うが、地域自治の中の話のため、計画の検討の中では話題が出ない。こういった良い事例を共有していくことが大事だと思っている。

・モデル事業についても、取組の中でどんな課題が生まれてきたのか、課題に対して関係者がどう考えているかを皆さんへ伝え、一部の担当者だけで話し合うのではなく、どう選択をしていくのか、社会の中でどう関わっていくのかということとを皆さんと一緒に考えていけるとありがたい。

・この会議でどこまでやるかの話はあるが、福祉の分野は、高齢、障がい、子どもについて、縦割りから横の連携でやっていくという流れになっているが、実際はそうならない。一方で、課題から入ると役割分担という話になってしまうため、希望や可能性から考え、自分たちができることを持ち寄って組み立てていく発想に変えていかないと難しいと感じている。

・居場所づくりやコミュニティカフェについて、安城では駅前の空き店舗を活用し NPO 法人が運営している ing（イング）カフェというのがある。普段はコーヒーを出したりする居場所だが、そこに認知症の家族の方を支援することが始まり、その後に発達障害の子に関することとも始め、手広くやられており、参考にしていたのではないかと。

- ・介護については、知り合いの映画監督で父の介護を撮り続けた人がおり、上映会では体験談なども話していただける。よろしければ紹介できる。
- ・助成金事業で蒲郡 ropeMUSUBI プロジェクトの応募をしたが、まちづくりセンターに関わる前はまちづくり助成金について全く知らなかった。知った後も、自分に必要か分からず申請していなかった。蒲郡ロープに関わる中で、やりたいことが見えてきて、思いはあるものの、どう実現するかを回りの人に話をしながら考えていた。ロープ会社の方と話をすることで、助成金を使ったほうがいいよと言われ、応募してみようと思った。実際やってみて、第三者に話すことで、未来や先を問いかけてくれるなど、内容が深まっていき、段々周りの人が動いてくれるようになった。助成金を応募するという行動から、自分のアイデアが動き出した。
- ・思いを持っている人がたくさんいる。まちづくりセンターが、まだ団体を持っていない人でも、気軽に足を運べる場所になるとよいと思う。
- ・皆さん自身がやってみたいことがあり、それが実は課題解決につながっているということが、まちづくりだと思っている。山中さんや笹野さんのように、最初はどうなるか分からないというところからやってきた人たちに、魅力ある大人として語ってもらうことがいいのかなと思う。
- ・ハッカソンに参加して、子どもたちの話を聴いていて、蒲郡に対してたくさん思いを持っていることが分かった。課題からの検討ではあったが、そういう場があることがすごく大事だと思った。
- ・若い人に伝えることが大事で、この会議にも若い人がいるとよい。
- ・会議も報告会も、市役所ではなく、駅前などでオープンに見えるところでやればよいと思う。

3 その他

<次回会議予定>

- ・第2回 令和7年9月下旬を予定